

海外日記 (十九)

Harvard College Observatory,
Cambridge, Mass., U. S. A.

山 本 一 清

二月十一日(月)

朝十時から天文臺。今日はマゼラン星雲の文献を研究して、長い時間を費した。

午後五時から物理学談話會の題は紫外線の光度測定であつた。ヤーキースのプリンビー教授よりの來書によれば、F E シーグリーヴス老人が望遠鏡を賣りたがつてゐる由。此の人に一度會つて見たいと思ふ。

二月十二日(火)

今日は大小の兩マゼラン星雲中の星團と星雲とを研究した。

そして此の方面に、既にシャプレイ氏が多數の新發見をしてゐるのを知つた。勿論未發表ではあるが。……兎にかく、皆之れアレキバ出張所の寫眞觀測の結果の賜物だ。寫眞の偉力は今後大に利用しなければならぬと思ふ。

今朝配布されたアレンテンの中に、自分のやつたアンドロメダ星の研究結果が載つてゐる。

夜八時から、ハーバード大學音樂講堂へE バランテン氏とM バトライ夫人の演奏をきくに行く。

今日はアブラハム・リンカーンの誕生日だと思ふ。

二月十三日(水)

ワイルソン山のアダムス臺長から、さきに自分が提出して於いた太陽研究の論文が返送されて來た。大きな表などがあるので印刷費のかさむのを恐れ、ペーシ数を減じてくれといふ注文である。カーネギー財團でもあるものがケチな事を言ふものだと思ふけれど、仕

方がない。——それにニコルソン君の批評も來たので、少し計算をして見なければならぬ。

午後二時から、ボストンのセルキン劇場へ行つて、ジエン・カウルの沙翁劇アントニー・クレオパトラを観る。此方が前のロミオ・ジュリエットよりも好いと思ふ。

夜九時半から天文臺へ行き、キング教授が十時を使用せられるのに對し、自分は六時を使つて、夜半、アルデバラン星の掩蔽を観測したが、不幸、自分は豫定時刻の誤解から失敗した。残念々々!! 日本の外債が景氣よく成立したといふ。

二月十四日(木)

太陽論の補遺として、今日は終日計算に費した。何だかニコルソン君の批評は當つてゐないゾ!

二月十五日(金)

今日も朝から太陽恒数の計算。いよく、カルシウム雲と太陽熱との間には直接關係が無い事を確かめた。

日本外債は發表と同時に賣り切れ。

二月十六日(土)

ミス・ウオーカーの方から、マゼラン雲の比較星がまはつて來ないので、暫く手持無沙汰。其の間のタイムを消すため、海蛇座RW星を研究することとし、其の準備をする。

夜、室住氏來訪。

二月十七日(日)

朝れ坊をした。食後、ロングフェローのクレイギ!館附近を二人で散歩。それからスクエアを経て歸宅。

午後、又、散歩。ハーバード大學のフォア美術館を観る。

二月十八日(月)

午前中は海蛇座RW星の比較星を測定。午後は太陽恒数の計算を、及、別の方面からつづける。

二月十九日(火)

午前中、海蛇座RW星の一九二一—二三年間に於ける變光曲線を

作つて見た。光度範圍が小さいので少しく不明瞭であるが、長期が不規則か。

午後、太陽熱の計算全部終了。これで二通りの方面から、太陽恒数とカルシウム雲との間には相關係数が全く存在しない事が確立した。始め、ニコルソン君の批評を驗する位なつもりであつた此の計算から、意外な副産物を得たのは喜ばしい。

午后四時半から、フイリプス・ブルクス館で、物理のライマン教授の信仰と現代宗教といふ講演をきく。此の國の人々には、やはり、いつまでも宗教と科學との關係が解けない謎らしい。

夕食に、英子はマーケットから買つて来た魚をさしみにして見た。恐るゝの冒險であつたが別に當らないところを見るさ、さほど心配する程でもない。

二月二十日(水)

日本より來信。柴原君からの手紙によれば、池田保造君が一月の中頃に病死してしまつたといふ。余り突然で、思ひがけないので、二人とも大びくり、本統とは思はれない。

雪と風さが激しく、今日はヤーキースで用ゐた雪靴をばく。

二月二十一日(木)

海蛇座RW座は長期變光星、週期約三百七十日と知れた。一寸、珍らしい型の星だ。

二月二十二日(金)

今日はワシントン誕生日であつて、米國一般の休日。

朝十一時頃、藤原氏が當地に新來の春日井氏を案内して、來訪せられたので、午餐を供した。午後二時半には室住氏が、又、加藤氏を始めて連れて來られた。

今日は、吾が家としては、英子の誕生日にも當つてゐるので、夕方、天文臺のESキンガ教授と同夫人を宅に招き、日本式の晚餐をすゝめた。夫人は左ききであつて、箸を始終左手で握つて居られた。米が餘り多いので少々閉口せられたらしい。

二月二十三日(土)

小マゼラン雲の比較星がミス・チーカーの手から、ぼつ／＼とまはつて來たので、今日はブルース寫眞版のカタログを作つた。

夕方、室住氏に招かれ、加藤、春日井、藤原氏と共にホストン支那人街の醇香樓へ行つて晚餐。其の後、ワシントン街を暫く散歩して歸宅。

二月二十四日(日)

朝、アプルトン・チャペルで禮拜。それから藤原、上井、北澤氏等と暫く散歩。

午後二時、兩人で室住氏の病氣を見舞ひ、それから、天文臺にシヤブレイト宅を訪問、庭前の雲すべりの群集などを暫く眺めてゐた。歸途、高松氏の紹介狀を持つてミス・ホートンを訪問。

二月二十五日(月)

午前中、小マゼラン雲の寫眞板カタログ出來。

午後五時よりの物理學談話會には、御大ライマン教授が紫外線分光學の最近狀況を述べられた。

日本より、東京御成婚の記事の新聞ごつさり來る。又、安田兄よりは「改造」を送られた。

シーグ・リーヴス老より來書。

二月二十六日(火)

今日から、いよいよ、小マゼラン雲の中の變光星を測り始める。先づ第一に第三十五野の附近から。

オランダの、ライテン天文臺長デ・ジター教授より來書。ヘルツスブルンガ教授は五月末に南亞より歸國する由。

二月二十七日(水)

夜八時から、天文臺の中で、天文談話會が開かれ、先づミス・ペインの「恒星スペクトル中のシリコン線」といふ同女史最近の研究結果の發表があり、次で自分が「日本に於ける天文學」といふ題で三十分ばかり講演をした。日本から持參の算盤や星座早見を見せたところ、何れも大持てであつた。

天界二月號到着。

二月二十八日(木)

例によつて、小マセラン雲研究。

二月二十九日(金)

アダムス氏のすゝめにより、自分の太陽研究報告をシヤブレイ氏に見せることにした。

夕方に室住、加藤兩氏を招いて晩餐を共にし、其の後、四人連れで、かての招待に應じ、ホストン市のトエンテイス・センチュリ・クラブ内、開かれる日本協會の例會に出席。日本人は五六十人、多くは學生で、劍道や、尺八や、能や、詩の朗讀などをやつた。最後に君が代を歌つた。此の席上、吉田霽伯の日本霽が壁間に美しく陳列されてゐた。

三月一日(土)

午前中、天文臺でマセラン雲研究。

午後二時半から、室住加藤兩氏と共にブルクラインの後藤田氏を訪問、恰も、大橋川上兩氏が來合せてゐられたので大賑はひ。後藤田氏はラザオの研究家であるが、又、手製の一時望遠鏡なども持つてゐられるので、金星をそれで見たりした。夕方、一同七人揃つてホストンの支那食店へ行き、九時半頃歸宅。歸途、室住加藤兩氏と自分とは來週中に各マラテオ・セツトを手製することを申合せた。

三月二日(日)

朝、大學のアプルトン・チャペルで禮拜、後、日本人四五人と共にヤードで寫眞など撮り、暫く散歩。

午後一時には、招かれて、バキンガム街のミス・カノン宅に行き、午餐の饗を受け、それから二時間程、世間話。ミス・カノンは例の通り先年のベル旅行の土産話で持ち切り。

三月三日(月)

午前中は天文臺。午後、ホストンへ行き、二三の店でレテオ(無線電話)に必要なものを買い、序でに、二時過ぎ、トリモント會堂でデザト・カバフィルド(デクンス原作)の活動畫を見た。

夕方、獨りでブラク氏を訪ひ、レテオの參考書を二三冊借り。

三月四日(火)

例よりも早起き、食後、スクエアで散髪してから天文臺へ行く。

仕事は、やはり、小マセラン雲中の變光星測定。

午後は、又、ホストンへ行き、昨日買ひ忘れたレテオの部分品を買つた。それから歸つて、室の天井に架空線^{アンテナ}を張る。

三月五日(水)

終日天文臺。英子は三時からブラク宅へ行く。

夜、感波結晶を用ゐてレテオを試験して見たが、手製コイル不完全のため失敗であつた。

三月六日(木)

午後、シヤブレイ臺長に、ウイルソン山天文臺で自分がやつた太陽研究の、さなご話し、尙序でに、マセラン雲の光輝分布問題や星雲星團分布や變光星統計等について小一時間ほど話す。

夕方、ハーワード・スクエアでレテオ部分品の不足のものを買い、食後、ハynes型の受信器を組立てた。午後八時頃、受信器を耳にあて、蓄電板をまはして、始めてメドフォードのWGIから音楽を聞く。まづ、成功!!

三月七日(金)

朝、セントラル廣場でレテオの部分品を買ひ増した。ホストンまで出掛ける必要は無いわけだ。

午後、天文臺から歸つて、ハynes式の受信裝置をチョコレート箱の中に収め、例のWGIをきき、夜遅く、尙、波長の長いもの三つばかりを聞いたが発信通知が弱くて聞き取れない。夜半過ぎの二時半頃、ふと思ひ出して床より起きて出で、れまきのまゝで受信器を音楽をやつてゐるのが聞えて來た。暫くして、其の音楽が途切れたかと思ふと、口上係の聲が、「之れはKYW局です」と言ふぢやないか!! KYWは確かにシカゴ市の發信局である。當地を距る實に八百六十哩。之れが手製の受信器で聞き取れたとは、自分ながら驚いた。